

THE ROOF

中澤弘光 《灯（加茂川夕涼）》
1914（大正3）年
油彩・キャンバス 当館蔵



Contents

- 企画展「平間至展 写真のうた -PHOTO SONGS-」
- 企画展「大正イマジュリイの世界 ～モダンデザインの饗宴～」
- 報告「酒と醸す美術 美酒と美器への憧れ」
- 報告「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」
- 常設展示のご案内
- Report
- Information

平間至展

写真のうた



「忌野清志郎、「NO MUSIC, NO LIFE.」
2008年6月-7月」@ Itaru Hirama

「音楽」が聞こえてくるような躍動感のあるポートレート。写真家・平間至（1963）は、1990年代にこう評され一世を風靡した。その影響力は大きく、タワーレコードの「NO MUSIC, NO LIFE.」キャンペーンや音楽雑誌などで多彩なアーティストを撮り続け、30年以上第一線でカルチャーシーンを牽引する。

宮城県塩竈市の写真館の3代目として生まれるが、音楽を愛する祖父や父の影響のもと、物心ついた時には音楽と写真のどちらもごく身近な存在だったという。中校時代には、パンク音楽との運命的な出会いを果たし、自らも楽器を奏てる。平間にとつて、「写真と音楽」は分かち難い普遍的なテーマだ。

動く被写体の撮影方法で他と一線を画すのは、平間自身がアーティストたちに合わせて縦横無尽に動きながら撮影するスタイル。ここから被写体との一期一会のセッションが生まれる。平間と数々の仕事を共にする郡山市出身のクリエイティブディレクター箭内道彦は、あるインタビューの中で、平間の撮影が音楽やライブに通じると語っている。



『場踊り』2007年©Itaru Hirama

「すごいグルーヴ感！」「音楽聞こえるよね！」テレビ番組のロケで展覧会に訪れたミュージシャンたちが何度も口にした。音楽世界と関わりの深い彼らのリアリティのあることばだと思った。嬉々として写真に見入っている彼らと

写真も併せて展示されている。

「すごいグルーヴ感！」「音楽聞こえるよね！」テレビ番組のロケで展覧会に訪れたミュージシャンたちが何度も口にした。音楽世界と関わりの深い彼らのリアリティのあることばだと思った。嬉々として写真に見入っている彼らと

きた。平間は2007年に塩竈に田中を招き、「場踊り」を撮影した。全てのものと一体となり、風景の一部と化した田中の踊りの内側で平間は共振し続ける。二度とないタイミングによる「場踊り」の撮影は、その後も各地で行われている。

一緒に展示室を歩いていると、「写真で音楽を鳴らしたい！」という平間の声が聞こえたようだつた。

（永山多貴子）

企画展

「平間至展 写真のうた -PHOTO SONGS-」

2024年7月6日（土）～8月25日（日）

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：毎週月曜日（7月15日、8月12日は開館、翌日休館）

入場料：一般／1,000（800）円

高校・大学生、65歳以上／700（560）円

※（ ）内は20名以上の団体料金

※中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催：郡山市立美術館

企画協力：株式会社コンタクト、平間写真館 TOKYO

協力：タワーレコード株式会社、富士フィルム株式会社



平間展展示風景ポスター



橋口五葉『NIPPON YUSEN KAISHA』(日本郵船パンフレット)
1914～15(大正3～4)年 個人蔵

大正イマジュリィの世界

モダンデザインの饗宴

「イマジュリィ」。あまりなじみのない言葉かもしません。「イマジュリィ(“Imagerie”)」とは、イメージ図像を意味するフランス語で、本展においては、書物の挿絵や装幀、絵葉書、ポスターなどにみられるデザインやイラストレーションを表します。

明治末から大正、昭和初期にかけて、

印刷技術の発展とともに視覚情報に富んだ雑誌などが刊行されました。のちに「大正デモクラシー」や「大正浪漫」といった時代を象徴する言葉が生まれ、政治や社会、文化の各方面で民主化が進み、大衆の文化が花開いた大正時代には、多様なイマジュリィが生み出されます。大正イマジュリィの世界を華やかに彩ったのは、藤島武二や橋口五葉、竹久夢二など、さまざまな表現方法を模索していた画家たちでした。彼らは、絵画だけでなく、雑誌の表紙や書物の装幀、企業の広告など、デザインの分野において新たな活躍の場を見出しました。

当時、「デザイン」という概念や言葉は主に「図案」として工芸を飾る意匠として用いられていましたが、次第に書籍の装幀や挿絵、広告といったグラフィックの世界へと広がりを見せました。その流れの中で、杉浦非水のようなグラフィック・デザイナーが誕生します。非水は、日本で最初の百貨店となつた三越において、1908(明治41)年から約27年にわたり嘱託デザイナーとして広報誌の表紙やポスターのデザイ

ン全般を手がけました。動植物モティーフのアール・ヌーヴォーから幾何学的な直線や曲線を用いたアール・デコまで、さまざまにスタイルを変えながら、時代の先端を行った非水のデザインは色褪ることなく、今なお輝きを放っています。

1910(明治43)年に創刊され、

1923(大正12)年まで続いた文芸雑誌に『白樺』があります。『白樺』には、詩や短歌、小説といった文学作品ほか、海外の美術作品の図版も掲載され、若い芸術家たちの関心を集めました。『白樺』創刊メンバーのひとり、柳宗悦によつて誌上で紹介されたイギリスの挿絵画家がいました。オーブリー・ビアズリーです。短い伝記と数点の図版が掲載され、その優美な線描や大胆な白と黒の対比、退廃的で妖しい表現は当時の芸術家たちを魅了しました。



杉浦非水
『初夏』(『三越』第22巻5号表紙)
1932(昭和5)年 個人蔵

企画展

大正イマジュリィの世界～モダンデザインの饗宴～

2024年9月7日(土)～10月27日(日)

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日：毎週月曜日(ただし9月16日、23日、10月14日は開館、翌日休館)

入場料：一般／1,000(800)円

高校・大学生、65歳以上／700(560)円

※()内は20名以上の団体料金

※中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催：郡山市立美術館

監修：山田俊幸(元帝塚山学院大学教授)

協力：大正イマジュリィ学会

企画協力：株式会社キュレイターズ



オーブリー・ビアズリー
『おまえの口に口づけしたよ、ヨカナーン』
(オスカー・ワイルド『サロメ』
挿絵) 1893年 当館蔵

本展では、当館所蔵のビアズリー作品をはじめ、イギリスの書物や版画作品など、大正イマジュリィに大きく影響を与えたイギリスのイマジュリィも併せてご紹介します。
(塙本敬介)

酒と醸す

美酒と
美器への
憧れ

美術

かも

2023年11月3日（金・祝）
～12月24日（日）

主催：郡山市立美術館

スデザイナー佐藤潤四郎は、ガラスの器として最も基本的な造形はタンブラーにあるとして、手で持ち、口に運ぶという一連の動作が心地良くあるようござりました。手によく馴染む柔らかな形が潤四郎作品の特徴です。タンブラーと同様に飲酒器である『ルーマー杯』は、彼のガラス工芸に関する広範な知識と作風が合わさった作品のひとつといえるでしょう（図5）。ルーマー（レーマー）杯とは白ワインを飲むためのドイツの伝統的な杯です。一説には滑り止めともされるプランツという突起状の飾りがつくことが多い、特徴的な形状をしていますが、佐藤潤四郎はドイツのレーマー杯の瀟洒な形に緩やかさを与え、温かみのある姿に仕上げました。

お酒にまつわる美術といえば、工芸作品としての酒器や酒宴を描いた絵画などが思い浮かばれるでしょうか。本展では、市内の酒造家や県内外の多くのご所蔵者にご協力いただき、酒というテーマのもとで多彩なジャンルの作品約250点を展示、人と酒のかかわりから豊かな美術が生まれてきたことをご覧いただきました。

まず、市内で出土した土器の酒注具やかわらけ、婚礼などで使われた角樽、貴重な室町時代の瓶子などを展示し、古くから酒が祭祀やハレの場で重要な役割を担っていたことを振り返りました。

地元の文化の一例として、幕末の学者、安積良齋の酒を題材にした詩や、江戸時代後期から明治時代に郡山市湖南地区の福良で生産されていた福良焼もご紹介しています（図1）。

デザインの章では、郡山市出身の佐藤潤四郎（明治40年～昭和63年）デザインの手吹きウイスキー瓶《スリーイン》の手吹きウイスキー瓶《スリーイン》の手吹きウイスキー瓶《スリーイン》

パニッカ》や、市内の酒造の趣向が凝らされたボトルから、酒を包むボトルデザインがお酒の個性を形作る要素のひとつであることを感じていただけたのではないかでしょう。また、「赤玉ポートワインボスター」をはじめ、お酒にまつわるデザインで欠かせないのがポスター芸術です。大正期になると画家が創意を凝らした、大型で色鮮やかなポスターが製作されるようになり、豊かな印刷芸術が酒販に華を添えました（図2）。

展示室後半を彩るのは国内外の多様な酒器たち。舶来のガラスとそれに憧れて日本で生まれたガラス器や、徳利を主要な生産品のひとつとした丹波焼、美濃焼の産地市之倉の盃など、様々な背景を持つ酒器が一堂に会し、奥深い魅力を披露してくれました（図3）。

ここでは、当館でも人気の高い佐藤潤四郎のルーマー杯と、その基となつた杯の共演が実現しています（図4）。ガラ



図1



図2



図5 佐藤潤四郎
《ルーマー杯 なみなみの
ワイン》 当館蔵



図4



図3



印象派

モネからアメリカへ

——ウスター美術館所蔵——

Frontiers of Impressionism: Paintings from the Worcester Art Museum



WORCESTER

印象派誕生150周年を記念して開催された展覧会「印象派 モネからアメリカへウスター美術館所蔵」は、当館が1992年に開館して以来、開催された企画展のなかで、過去最多となる約63,000人の来場者をお迎えすることができました。

出品作の中心は、ボストン近郊にあるウスター美術館の豊富な印象派コレクションでした。モネ、ルノワール、ピサロ、シスレーといったフランス印象派の巨匠たちの作品はもとより、日本ではまだ広く知られていない、ハッサンといったアメリカ印象派の絵画を紹介しました。

出品作のなかでも、とりわけ注目を集めたのは、柔らかな色彩と繊細な筆づかいによって描かれた、モネの『睡蓮』でした。また、フランス印象派とは趣の異なる、アメリカ特有の絵画多くの鑑賞者を魅了しました。これには、ボストンやニューヨークの都会風景や、グランド・キャニオンなど壮大な自然をテーマにした作品が含まれます。

展覧会の撤去作業を担当したウスター美術館のクリエイター女性が語つてくれた、心温まるエピソードがあります。作業後、郡山駅近くの飲食店に入った彼女は、店内に飾っていた絵はがきに目を留めました。それは、本展出品作品の絵はがきでした。店員に話を聞くと、「展覧会を鑑賞して、あまりにも素晴らしいかったので、この絵はがきをショットで買って、思い出として飾つ



企画展

印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵

郡山市制施行100周年記念事業

福島中央テレビ開局55周年記念事業

福島民友新聞創刊130周年記念事業

2024年4月20日(土)～6月23日(日)

主 催：印象派実行委員会

(郡山市立美術館・福島中央テレビ・福島民友新聞社)

後 援：アメリカ大使館

協 賛：光村印刷

郡山展協賛：アリエル美容クリニック、エフコム、ギャラリー菜根、

福島県商工信用組合、福島日産自動車

協 力：NX日本通運

企画・コーディネーション：日テレイベンツ

This exhibition was organized by the Worcester Art Museum

ている」というのです。それを聞いて彼女も「郡山でウスター美術館の作品を紹介することができて本当によかったです」と、嬉しく感じたそうです。

「モネの『睡蓮』を見て涙があふれた」、「感動のあまり11回も展覧会を訪れた」といった熱心な美術ファンから寄せられた感想は、当館にとって大きな励みとなり、何よりの喜びとなりました。

また、会期中、東北学院大学の格別なご厚意により、大学構内の施設で展

覧会と印象派の魅力を探求するワークショップを実施させていただきました。末筆ではございますが、この場を借りて、貴重な作品をお貸出していただき、またウスター美術館、国内の美術館、並びに多大なるご尽力ご高配を賜りまして関係各位、そして、ご来場くださいました皆様に、心より御礼申し上げます。

(富岡進一)

展示室
1

まなざし、その表情



展示室
3

郡山の彫刻家たち



展示室
4-2

工芸・デザイン・素材



常設展示室紹介

2024年7月10日(水)～9月29日(日)

郡山市立美術館では、4つに分かれている常設展示室をそれぞれにテーマを設定し、所蔵作品を紹介しています。

展示室
2

大正という時代



展示室
4-1

版画の技法と表現



次回常設展のご案内

2024年10月2日(水)～12月27日(金)

- 展示室1 ウィリアム・ブレイク特集
- 展示室2 福島ゆかりの日本画
- 展示室3 フロンティア精神のひとびと
- 展示室4-1 浜田庄司とエリック・ギル
- 展示室4-2 クリストファー・ドレッサーの芸術

// 音声ガイドはじめました //

今年度より、当館の常設展示室では、音声ガイドがご利用いただけます。

展示作品の中から選りすぐりの作品を音声で解説しています。

QRコードで音声ガイドに接続

(アプリをダウンロードしていただく必要はございません)



お聞きになりたい
作品の番号ボタン
を押してください



表紙の
作品



中澤弘光 《灯（加茂川夕涼）》

1914（大正3）年 油彩・キャンバス 当館蔵

中澤弘光は、東京・芝に生まれた画家です。1896（明治29）年、東京美術学校西洋画科選科に入学し、黒田清輝に学びました。本作には、京都・鴨川で舞妓たちが夕涼みをする様子が描かれています。中澤は、日本の古典文学や古都の風俗をモチーフにした作品を多く残しましたが、なかでも舞妓は彼が最も好んだ題材のひとつで、当館にも本作のほかにもう一点、舞妓を描いた作品が収蔵されています。

Report

第15回風土記の空～郡山市内の中学校美術部による作品展～

会期：2023年11月17日（金）～12月27日（水）

場所：美術館ロビー

参加中学校：日和田中学校、喜久田中学校、郡山第三中学校、郡山第四中学校、郡山第七中学校、緑ヶ丘中学校、富田中学校、小原田中学校、西田学園（計9校）



ワークショップ「テンペラ技法を楽しむ」

2024年2月10日（土）、11日（日）

場所：創作スタジオ

講師：斎藤ナオさん（画家）



文化講座「まつろわぬ民 2024 更地のうた」

2024年2月3日（土）

場所：階段ホール

出演：白崎映美さん、佐藤正宏さん
堀井政宏さん、吉田佳世さん
ファンテイルさん（ギター）



企画展「酒と醸す美術」関連

会期：2023年11月3日（金・祝）～12月24日（日）

講演会「和ガラスの見方 びいどろとギヤマンの材質、美意識の違い」

2023年11月11日（土）

場所：多目的スタジオ

講師：岡泰正さん

（神戸市立小磯記念
美術館館長）



講演会「日本酒、その粋な世界」

2023年11月19日（日）

場所：多目的スタジオ

講師：小泉武夫さん

（東京農業大学名誉教授、
農学博士）



ワークショップ「オリジナルのボトルラベル&カード作り」

2023年12月3日（日）

場所：階段ホール

講師：増子哲平さん（書家）



ワークショップ「はじめての陶芸～酒器などのうつわ作り」

2023年12月17日（日）

場所：創作スタジオ

講師：志賀喜宏さん

（陶芸家、あさか野焼窯元）



ミュージアムコンサート「美酒と醸すジャズの夕べ」

2023年12月9日（土）

場所：階段ホール

出演：仁井田真樹さん（ピアノ）

上野まことさん（テナーサックス）

吉田大陽さん（ベース）、増子雄児さん（ドラムス）



「美酒と醸す美術ツアー」

2023年12月16日（土）

場所：企画展示室、笛の川酒造

案内：当館学芸員

企画展「ロイヤル コペンハーゲン と北欧デザインの煌めき」関連

会期：2024年1月30日（火）
～3月24日（日）

講演会「ロイヤル コペンハーゲン ビング オー グレンダール」

2024年2月18日（日）

場所：多目的スタジオ

講師：塩川博義さん
(日本大学教授、コレクター)



常設展 「“雰囲気”を展示する」関連

会期：2024年1月30日（火）
～4月21日（日）

特別ギャラリートーク

2024年3月23日（土）

場所：常設展示室2、3室

講師：久山雄甫さん
(神戸大学准教授)



Information

第22回 風土記の丘の美術展

—郡山市内の小学生による作品展—

会期：2024年7月27日（土）～8月23日（金）

主催：郡山市立美術館

郡山市小学校造形教育研究会

場所：美術館ギャラリー（入場無料）

4期に分けて、週替わりで展示します。

今年も元気いっぱいな作品が並びました。

第1期：2024年7月27日（土）～8月2日（金）

東芳小学校、桜小学校、桑野小学校、大島小学校、緑ヶ丘第一小学校、小山田小学校、大成小学校、朝日が丘小学校、宮城小学校、海老根小学校、御館小学校、西田学園、湖南小学校

第2期：2024年8月3日（土）～8月9日（金）

郡山ザベリオ学園、日和田小学校、高倉小学校、行健小学校、行健第二小学校、明健小学校、小泉小学校、行徳小学校、安積第一小学校、安積第二小学校、安積第三小学校、永盛小学校、柴宮小学校



第22回 風土記の丘の美術展 展示風景

第3期：2024年8月10日（土）～8月16日（金）

穂積小学校、三和小学校、多田野小学校、河内小学校、片平小学校、喜久田小学校、熱海小学校、安子島小学校、守山小学校、御代田小学校、高瀬小学校、谷田川小学校、金透小学校

第4期：2024年8月17日（土）～8月23日（金）

芳山小学校、橘小学校、小原田小学校、開成小学校、芳賀小学校、桃見台小学校、赤木小学校、薰小学校、富田小学校、富田東小学校、富田西小学校、大槻小学校、白岩小学校

web サイト



Facebook



Instagram



TOPICS



130 CAFE
ジュジュ イチサンマル カフェ

営業時間／11:00-17:00
電話／024-942-2250

【メニューのご案内】

- レモンスカッシュ ¥550円
- レモンクリームソーダ ¥700円

今夏から新登場の
レモンの爽やかな酸味がシュワッと弾ける
生レモンとミントを添えた当店オリジナルの
「レモンスカッシュ」と
それに濃厚バニラアイスクリームをのせた
「レモンクリームソーダ」。
甘くてクリーミーなアイスが溶けていく
味わいの変化をお楽しみください。

★当カフェのドリンクメニューは
全てテイクアウト可能です。



メニューや料金、営業時間は予告なく変更となる場合が
ございます。
あらかじめご了承ください。

郡山市立美術館

Koriyama City Museum of Art

発行日／令和6年8月20日

〒963-0666 福島県郡山市安原町字大谷地 130-2
TEL.024-956-2200 FAX.024-956-2350
<https://www.city.koriyama.lg.jp/site/artmuseum/>

敷地内禁煙



紙へリサイクル可